



2022-23 年度
国際ロータリー会長
ジニファー・ジョーンズ

Weekly Report Niigata



2022~23 年度
新潟ロータリークラブ会長

石川 治孝

新潟 RC 1 月第 2 例会 (2023.1.17) (Zoom 例会併催) No.3443 (新年家族例会 於 行形亭)

(1) ロータリーソング「四つのテスト」CD

(2) 石川 治孝会長挨拶

本日は新年会という事でここ行形亭にて開催となりました。みなさまご存じの通りここ行形亭は 300 年ほど前の創業が禄年間 (1688~1703 年) 江戸時代中期頃、と言ったら小堀遠州が活躍していた時代です。そのころここは新潟の浜からほど近い状態にありました、創業時は浜茶屋として開業し、時代を経て現在新潟の老舗の料亭として存在しています。以前の新潟の町は、信濃川と阿賀野川の二大河川によって、信州、上州、奥州と深く結びつき、新潟港は船の往来が盛んな町でした。故にもてなしの文化がさかえ、新潟には数多くの料亭が現在も存在しています。つまりここ行形亭も新潟にあるそのほかの料亭も、新潟芸妓も古くから伝わる新潟そして日本の良き伝統を受け継ぎ次世代へ伝えるべく、一生懸命努力をされて居る分野と言えると思います。ここ行形亭では 2000 年 (平成 12 年) 4 月 28 日に、建造物のうち主屋、他 10 件が国の登録有形文化財に登録されました。その中で皆さんがくぐってこられた表門も国の有形文化財に登録されています。この門は、銅板葺の薄いムクリ屋根を載せた数寄屋風の門ですが、私はこの門にかかる松が見事で通りかかるというも見とれてしまいます。さすがにこのような手の入った松を探せと言われても簡単に見つかるとは思えなく、長い年月をかけここで、丹精込めて作られた物であろうと想像できます。そしてここ行形亭の松も新潟市の保存樹林に指定されています。松の剪定は他の植物とは違いちょっとだけ特殊です。松は枝の先端の部分からしか芽が出てきません枝の途中どこからでも出てくるつつじ類などの植物と比べると慎重な剪定管理が必要になってきます。松は 6 月ごろぐんぐん新芽が伸びてきますが、その後が松の剪定のしどころで、この図のように新芽は一つの場所から何本か伸びてきます、そのうちの 2 本を基本的には残し一番長いものは切ってしまいます。長芽優勢と言われてその長く伸びた芽に栄養が偏り他の小さな芽に栄養がいきづらくなるためです。

そして図のように二股になるように芽を残し仕上げていきます。松の体調や枝の位置に合わせ、緑の濃さ(葉っぱの量)を調整し、そして枝をなるべく交差しないように二股二股に仕上げていきます。先に来年の芽が出てくること期待しつつ、枝をすっきり見せるために古い葉っぱをある程度落としていきます。このようにして枝数を多くし一つひとつの枝から出る芽の大きさを過度に大きくしない様調節する意味もあります。枝を下から見るとその枝の様子が見て取れると思いますが、そのようにして何年もの時間をかけ思うような形に仕上げていきます。ぜひとも帰る際には真っ暗で見れないかもしれませんが機会がありましたら、母屋や表門それにかかる松の姿をご覧になり味わっていただければと思います。本日この行形亭さんで皆さんと共に新年会を持てるのはこの上ない幸せですし、意義深いことだと感じます。それではこれで会長挨拶を終わりにします。ありがとうございました。

(3) ゲストの紹介 ご夫人 5 名

石本陽子さん 石橋モユ子さん、坂井文子さん
坂本典子さん、高橋歩さん

(4) 1 月 17 日の例会参加率

会員数	算定対象者	出席者	参加率
89	85	47	55.30

Zoom 参加 2 名

1 月 24 日の例会予定 「会員スピーチ」

「白山公園開園 150 周年と白山神社」
白山神社 宮司 小林 慶直君

新潟ロータリークラブホームページアドレス
<http://www.niigatarc.jp/>

新年家族会懇親会

於 行形亭

司会 牧野伸喜親睦委員

開宴挨拶 坂井賢一親睦委員長

乾杯 石本隆太郎 PG

古町芸妓の手踊り

歓談、会食

万代太鼓 紹介 岡村健吉親睦委員

歓談、会食

各種お祝い品贈呈

歓談、会食

中々挨拶 高橋 秀樹ガバナー



撮影 小山章司広報会報雑誌委員